

# 吉野川で遊ぼう！！



大谷焼（鳴門市大麻町）

こんにちは。川遊び大好きアクティブ系河川管理者「遊び人のM」です。  
吉野川で遊ぼう！！では、自ら体験し、川を楽しみ、感じたことを発信します。  
第7回は「徳島の伝統工芸品を作ろう！大谷焼」です。



出典：国土地理院ホームページ

世界には有田焼、九谷焼、備前焼、マイセン…など陶磁器の有名な産地があります。

徳島には旧吉野川の支川大谷川が流れる鳴門市に240年の伝統を持つ大谷焼があります。

江戸時代、徳島の城下町は、全国の市場を独占するほどの品質の高い藍の産出があったため、全国でも有数の大都市でした。藍染めに欠かせない巨大な藍甕（あいがめ）に使用された大谷焼は、藍染めとともに発展してきました。



当主：矢野款一先生

鳴門市大麻町の6つの窯元では、当日予約も可能な陶芸体験があり、気軽に作陶を楽しむことができます。最も古い歴史をもつ窯元矢野陶苑さんで大谷焼体験をしてきました。

大きな甕を眺めながらトビウを開けると、店内にはコーヒーカップやお皿、花瓶などが並び、阿波踊りの焼き物も見られました。



## ※体験レポート (from アカサカサカス)

徳島を代表する文化のひとつ「大谷焼き」。手びねりと電動ロクロにチャレンジしました。

電動ロクロは回転する中心を軸として、お椀やコップのような丸い形状の陶器を作れます。

早速、お手本として、先生がものの1分程でお椀を作り上げました。かなり優しく指で伸ばしながら作っていたため、あんがい簡単に出来そうな予感。

さあチャレンジ！お椀の縁となる部分を内側と外側から指で押さえて、上へ伸ばしながら、厚みを調整しつつ作っていきます。慎重にやっていると、適度に力を入れて押さえる必要があると分かったので、少し強く押ししてみる。すると、一気に縁が高くなり、以外と簡単だなと思った瞬間、他の指が当たってしまい、一瞬で壊れてしまいました。。再チャレンジしても、失敗が頭をよぎり、なかなか指に力が入りません。

「そんなに優しく押さえても、ただ回転しよる粘土を撫でよるだけや！」と先生に一喝。頭では分かっている、上手いかわないものでした。何度かやっていると、少しずつ要領が掴め、どこの部分が厚くて不均一になっているかを少し感じられるようになり、どんどん楽しくなっていました。

周りから「上手くできよる」と声が聞こえてきたかと思うと、だんだんお椀の縁がグニャグニャに。なんとかきれいに仕上げようと欲が出て。。(泣。かなり集中力が必要で、やはり先生はさすがだな～と心身ともに感じました。)



初心者は、厚く作りがちですが(というか薄くつukれない)完成品としては、厚いほど重くなり使い勝手が悪いため、良い陶器を作るには、やはり何度も何度も経験し、染みついた指先の感覚が大事なんだそうです。出来上がったお椀は、かなりボコボコした形ではありましたが、自分で作った達成感と愛着がとともありました。

身近に体験できる大谷焼き。これからも徳島の魅力をたくさんの人に知って貰うためにも、初めて徳島を訪れた人を連れて、また大谷焼きの体験に来たいと思いました。

早く出来上がらないか、完成が待ち遠しい。。



150年受け継がれている登窯はいまも現役で、年に1回大型の作品を焼いているそう。

徳島県人なら誰でも知っている大谷焼。実際に体験をした人はどれくらいいるでしょう。

手びねりも電動ろくろも1~2時間で気軽に楽しめます。



当主の笑顔と美しい所作を見ることができ大満足でした。